



日本統計学会 会報 2022.1.31

No.
190

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—大森 裕浩 (理事長) / 加藤 昇吾 (庶務理事)
中島 上智 (広報理事) / 城田 慎一郎 (広報委員)
高橋 慎 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|---|
| 1. 巻頭随筆：TQM と統計教育 …… 渡辺美智子… 1 | 6. 2021年1～6月統計検定CBT方式試験の成績優秀者 …… 樋口知之・大森裕浩… 9 |
| 2. 2021年統計関連学会連合大会の報告 …… 久保田貴文・西井龍映・坂本 亘… 3 | 7. 理事会・委員会報告 (2021年10月30日開催) …… 10 |
| 3. 2022年統計関連学会連合大会のお知らせ(第一報) …… 飯塚誠也・小森 理・黒田正博… 7 | 8. 新刊紹介 …… 12 |
| 4. 第16回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報) …… 大森裕浩・吉羽要直・中妻照雄ほか… 8 | 9. 学会事務局から …… 13 |
| 5. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集 …… 大森裕浩… 9 | 10. 投稿のお願い …… 13 |

1. TQM と統計教育

渡辺美智子 (立正大学)

昨年末、立て続けに同じテーマのインタビュー記事の依頼があった。日経クロスマン Dual や朝日 Edu, プレジデント社のプレジデント Family などである。前者2つは Web の記事だが、プレジデントは雑誌の特集記事を出すらしい。対象は、小学生の子どもを持つ、若い教育熱心な働く親世代、とくに、母親である。いずれもプロのライターがつくので、わたしの取り留めのない発散した話を上手く気を惹くタイトルで記事にまとめてくれる。例えば、『目標は「使える算数」 PPDAC で問題解決力を伸ばす』や『試験のために公式や定理を覚える教育ではなくて、実際の生活の中で使うための統計教育』、『情報化社会のサバイバルスキル? 子どもに統計学習が必要な理由』、『2003年の PISA ショックが統計教育に一石』、『あらゆる場面で統計ベースの習慣をまずは保護者からチャレンジ』などである。おそらく、職場

で何が強みになるのかを肌で感じている親が、新しい学習指導要領で小学生にも統計内容が位置付いていることで関心がより強まっているからだと思われる。実際、このような企画をまとめる編集者もライターの方自身も働く若い母親世代なので、インタビューでのほまり方が半端ではない。すぐに社内や同業者に伝搬させてくれるので、次々と同じ企画が走るのだろう。

小学生と親世代が同時に同じ内容の学習に関心を持つ背景は、政府の AI 戦略2019である。この政策推進により、小学1年から高校卒業時まで毎学年、算数・数学科で「データの活用」領域が設定され、何等かの統計グラフや統計量・確率から推測統計まで学習することになった。とくに高校では、数学に加えて新科目「情報 I, II」のデータサイエンス、機械学習と続き、両科目でセンター試験の出題内容となる。更に、大学でのデータ

サイエンス必修化、社会人のリカレント教育との接続も進行中で、企業や行政機関の中での統計・データサイエンス研修熱も高い。

指導要領の改訂で統計内容の拡大が図られたのは、今回で2期目である。10年前の改訂時では、それまで選択内容に押しやられ存在の薄かった統計の内容が約30年ぶりに拡充ということで話題となった。義務教育段階である中学校数学科に新領域「資料の活用」が設置され、更に共通必修科目高校数学Ⅰに新単元「データの分析」が加わった。

日本統計学会等から要望書を提出していた関係で、改訂が審議される前に文科省に非公式と呼ばれ、当時の視学官、教科調査官や教科書執筆者など関係者5、6名に、2時間スライドを使って必要性の話をした。その際、「統計は計算ができるだけでは何ものならない。具体的な文脈で使えることが大切であることを強調し、「活用」の名称に繋がった。「資料」より「データ」がいいことは伝えたが、この時点では、情報の科目の中で、「データ」はコンピュータにおける「データ表現」の意味で使われているということで見送られた。

それでも、「活用」という言葉には効力があり、この領域は数学者ではなく統計の専門家が扱う内容として認識され、何名かの統計の先生方が数学の教科書の執筆者に加わった。今回の2期目の改訂で、学校教育においてもデータサイエンスの基盤として「データの活用」の名称が採用され、「資料」から「データ」になるまでに10年かかったと、当時を思い出したところである。

問題解決の実践を目的に統計教育の方向を切り替え、K-12に大学教育の4年間を加えたK-16およびその先の統計専門実務家に対しても、ASAは積極的に詳細なガイドラインを公表し続けているが、この先導者は1993年にIASEの初代会長を務め、1998年ASA会長、2001年ASAファウンダーズ賞を受賞したDavid Moore教授である。Introduction to the Practice of Statistics や Basic Practice of Statistics の教科書の著者で、大学で開

講される統計学基礎コースの多くを統計学実践の基礎コースに塗り替えた功績で知られている。JSE20周年のインタビューの中で、「1960年代は、統計学の研究者の間でできるだけ数学者のように振る舞うことが流行していたが、1980年代以降、統計学の世界は急速に変化し科学的な推論とデータの分析志向・思考という原点に立ち返ることができた」と語り、数学の枠の中でも統計の研究と教育の転換が図られた背景が述べられている。Moore教授は、また、大きな助成金を得て、テレビ用の動画 Against All Odds: Inside Statistics（各30分×30本）を80年代に監修制作し、大学等ひろく教育機関の共同利用に供している。私自身は、2005年に放送大学でのTV授業を引き受けた際に、韓国放送大学のTaerim Lee教授から参考になるから是非、見ておくようにと強く勧められ、この動画を入手し視聴した。チャレンジャー号爆発事故、環境汚染、ビザハットの商品開発から顧客管理、スポーツの評価、医療診断等々の現場のロケ演出が統計学との関連性の分かり易い説明を交えて一緒にまとめられており、実社会での多くの活用場面を通して統計学の実践の基礎に誘う番組構成として大変に参考になった。現在、新版になってしまい、残念ながら当時のオリジナル版は入手できないのが残念である。

NSFと多くの統計学者で、大学における統計学コースの見直しを最初に討議した会議記録が Reconsidering Statistics Education: A National Science Foundation Conference (Cobb, 1993)にある。ここでも、Moore教授の発言が多く出てくるが、TQMのフレームで統計教育の質の改善を進める具体的な手順を述べている箇所は、TQMが海外の統計教育改革を進めた統計研究者に影響を与えていることを知る上でとても興味深い。

データマイニングからビッグデータ、そしてデータサイエンスと統計領域を巻き込む大きなブームが段階的にやってきた。NZを訪問した際に、RSS統計教育元センター長のNeville Davies教授やIASE元会長のChris Wild教授とこれらのブームの話をしていて、Neville教授が、「その前にも

TQMのブームがあったよね。あの影響は大きかった。」と言い、Chris教授も大きく頷いていたことが思い出される。日本では、品質管理と関わっていない限り、TQMと統計教育のことを結び付けて話す人をあまり見かけないが、むしろ海外では80年代後半以降、TQMの産業界をあげてのブームが、産業界から政府を介して大学などの教育機関に、統計的問題解決の考え方を広め実践力を高める教育方法に変革することを要請する動きに繋がっていったと思われる。「統計活用人材育成に対し、政府はスクールゲートを叩け」と書かれた記事を見たことがある。確かに、TQMでは、人が仕事や組織の質を決めることから、継続的な教育によって、人づくりを最優先させることを重視している。

データ分析の人材育成については、大臣や副大臣、自由民主党行政改革EBPM特別班(2017.04)などで、政治家に向けても話す機会をいただいた。時間はいずれも15分前後と短くても、「米百俵」

の精神は通じるもので、「真摯に受け止める」や「議員連盟を作る必要がある」などの反応があった。「データ分析人材の育成・確保について一統思考力・問題解決力・科学的マネジメント力の育成と関連資格の必要性」で、そのときの配布資料がアップされている。TQMに関しても触れたが、資料の最後に、2014年アリゾナで開催された統計教育国際会議ICOTS9における教員向けのプレセミナーでの米国センサス局専任統計広報官の講演の話も、国家戦略として統計教育を重視していることが端的にわかるので少し添えておいた。

日本も、AI戦略2019でようやく人材育成が重要な柱の一つに建てられ、統計・データサイエンスに向かう教育改革の具体的な方向性も示された。しかし、どういう人材像を最終的に目指すのか、STEMとリベラルアーツ、Data for GoodやSDGsのフレームも含めて考える必要があるのではと思う。

2. 2021年度統計関連学会連合大会の報告

運営委員長 久保田貴文(多摩大学)

実行委員長 西井 龍映(長崎大学)

プログラム委員長 坂本 亘(岡山大学)

1. 大会概要報告

久保田 貴文(多摩大学)

2021年度統計関連学会連合大会は、2021年9月5日(日)～9日(木)に統計関連学会連合に所属する6学会(応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会)の主催により開催されました。5日はチュートリアルセッションと市民講演会が、6日～9日は本大会が行われました。当初は長崎大学において、現地開催とオンライン開催の併用(ハイブリッド開催)を予定していましたが、コロナ禍の影響により、4月の時点で完全オンライン開催に切り替えました。

昨年に引き続き大会開催期間を5日間でオンラ

イン開催によって行いましたが、大きな問題もなく無事終了でき、大変嬉しく思います。市民講演会の参加者は207名(※Zoomのログにおけるユニーク数を集計)でした。また、参加登録者として、チュートリアルが384名、本大会参加登録者数は811名でした。講演件数は280件(キャンセルを除く)にのほり、今年度の大会は盛会のうちに終了しました。講演件数の内訳は、プレナリーセッション1件、特別企画セッション1件、企画セッション84件(ソフトウェア・デモンストレーションセッション4件を含む)、一般セッション167件、コンペティションセッション27件でした。

今回の大会が無事に終了し、また大会の円滑な運営を行うことができましたのも、ひとえに関係

者の皆様のご理解とご支援によるものと心より感謝しております。講演者、座長、企画セッションオーガナイザー、参加者の皆様に御礼を申し上げます。また、今回の大会も昨年と同様にオンライン開催となりましたが、例年と変わらぬご協賛をいただいた多くの企業・団体様にも重ねて御礼申し上げます。連合大会は今回で20回目を迎え、本来であれば節目となるような大々的な大会を行う予定でしたが、残念ながらオンライン開催となりました。ただ、オンライン開催も2年目となり運営のノウハウも昨年よりは蓄積されています。一方で、今年度も委員の負担軽減のため、一部の事務局業務について外部委託を行いました。昨年の大会から導入したウェブサービスにおいてもおおむね円滑には運用できましたが、まだまだご不便な点などもあったかと思えます。それを大きな心で受け入れてくださった6学会の会員の皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。最後に、岩崎前組織委員長、樋口組織委員長、西井実行委員長、坂本プログラム委員長、植木実行副委員長、黒田プログラム副委員長、飯塚運営副委員長をはじめ、ボランティアで活動してくださいました、実行委員、プログラム委員および運営委員の皆様、長崎大学の技術職員およびアルバイト学生の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

2. チュートリアルセッション・市民講演会報告 坂本 亘 (岡山大学)・西井龍映 (長崎大学)

今年度の連合大会も例年と同様にチュートリアルセッションから始まりました。今回は、9月5日(日)の午後にオンライン会議システム Zoom にて「Rによるデータ解析のためのデータ可視化」というテーマで3時間のセッションが行われました。本セッションでは、三村喬生氏(量子科学技術研究開発機構)、江口哲史氏(千葉大学)、瓜生真也氏(国立環境研究所)の3名の先生方に講演をお願いしました。3名の共訳による『実践 Data Science シリーズ データ解析のためのデータ可視化入門』(講談社)をもとに、それぞれ「Rと ggplot2によるデータ可視化入門」、「データの

加工・集計と統計モデルのデータ可視化」「地図を描画する」という内容で講義いただきました。

続く市民講演会では、山本和子氏(長崎大学病院呼吸器内科)が「新型コロナウイルス感染症の特徴と実臨床」との演題で講演されました。漠然と知っているつもりでの COVID-19 について、山本先生はデータに基づいて分かりやすく、かつ詳しい解説をされました。また講演後に多くの質問にも丁寧にご答えていただき、時機に合った市民講演会となりました。

最後に、チュートリアルセッションと市民講演会の開催に際して、ご講演を快くお引き受けくださった先生方に感謝申し上げます。

3. プレナリーセッション・企画セッション報告 杉本知之(滋賀大学)・坂本 亘(岡山大学)

連合大会初日の9月5日(日)午後に、プレナリーセッションが開催されました。今年度のプレナリーセッションは、日本統計学会の科学研究費補助金：国際情報発信強化(B)「日本統計学会欧文誌から国際的新雑誌への発展を計る取組」の計画に基づき、松田安昌先生(東北大学)のオーガナイズにより、Sudipto Banerjee 教授(Department of Biostatistics, UCLA School of Public Health)を招聘して「Bayesian modeling and inference for high-dimensional spatial-temporal data」というタイトルでご講演いただきました。その他に本大会ではソフトウェア・デモンストレーションセッションを含む22件の企画セッションが開催されました。今回開催された企画セッションのセッション名とオーガナイザー(敬称略)を以下に示します。

(01) 若手向けセッション：研究者への道Ⅱ(藤澤澤徳(統計数理研究所)、川野秀一(電気通信大学))

(02) デモンストレーションセッション(久保田貴文(多摩大学))

(03) 日本計量生物学会シンポジウム「リアルワールドエビデンスを指向した反事実因果アプローチの実践と課題」(篠崎智大(東京理科大学))

(04) 日本統計学会会長講演, 各賞授賞式および受賞者記念講演 (1) (山下智志 (統計数理研究所))

(05) 日本統計学会会長講演, 各賞授賞式および受賞者記念講演 (2) (山下智志 (統計数理研究所))

(06) 日本計算機統計学会 企画セッション『高次元データおよび高次元時系列データにおける統計的推測』(兵頭昌 (神奈川大学), 川野秀一 (電気通信大学))

(07) 応用統計学会学会賞受賞者講演 (姫野哲人 (滋賀大学), 南美穂子 (慶應義塾大学))

(08) 確率微分方程式モデリングのための統計ソフトウェア開発プロジェクト YUIMA における最近の成果の紹介 (小池祐太 (東京大学))

(09) 設計と製造のデータ科学: 産学の最前線 (吉田亮 (統計数理研究所), 藤澤洋徳 (統計数理研究所))

(10) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演 (安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構), 五所正彦 (筑波大学), 田栗正隆 (横浜市立大学), 長谷川貴大 (塩野義製薬))

(11) 地震ビッグデータ解析の最前線 (長尾大道 (東京大学), 加藤愛太郎 (東京大学地震研究所), 矢野恵佑 (統計数理研究所))

(12) 生存時間解析のモデル・手法 (江村剛志 (久留米大学))

(13) コピュラ研究の展開 (吉羽要直 (東京都立大学))

(14) 確率過程の統計学における最新の展開 (荻原哲平 (東京大学))

(15) 新学習指導要領と高大連携データサイエンス教育の展開 (竹内光悦 (統計教育委員長・実践女子大学), 藤井良宜 (統計教育分科会主査・宮崎大学), 渡辺美智子 (立正大学))

(16) IASC-ARS International Session 1 - Recent advances and new trends in computational statistics (森裕一 (岡山理科大学))

(17) IASC-ARS International Session 2 - Recent advances and new trends in computational statistics

(森裕一 (岡山理科大学))

(18) 人文学・社会科学分野におけるデータインフラストラクチャー構築推進事業の展開 (廣松毅 (日本学術振興会), 前田幸男 (日本学術振興会), 伊藤伸介 (日本学術振興会))

(19) 大規模データを対象にした匿名加工とプライバシー保護の動向 (佐井至道 (岡山商科大学), 星野伸明 (金沢大学), 伊藤伸介 (中央大学))

(20) 公的統計マイクロデータにおけるさらなる利活用をめぐって (南和宏 (統計数理研究所), 伊藤伸介 (中央大学))

(21) 応用統計学会の企画セッション: 統計的因果効果推定の近年の進展: 異質性を中心に (星野崇宏 (慶應義塾大学・理化学研究所))

(22) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療統計学のフロンティア」(伊藤陽一 (北海道大学病院), 田栗正隆 (横浜市立大学), 松井茂之 (名古屋大学・統計数理研究所))

4. コンペティションセッション報告

黒田正博 (岡山理科大学)

今年度は, 9月6日(月)から9月8日(水)の3日間にわたって6つのコンペティションセッションが設けられました。審査対象となったのは27件でした。

審査では, 今年度もこれまでと同様に, 研究内容とプレゼンテーションの双方を評価対象としました。限られた時間で, 専門外の人に対して, いかに自分の研究内容を報告するかということが重要な評価項目です。原則として8名の審査員が審査を担当し, 各発表に対してA(4点)~E(0点)の評価を与えました。全審査員のスコアの単純平均により順位をつけ, 最優秀報告賞と優秀報告賞を決定しました。

選考の結果, 最優秀報告賞1件, 優秀報告賞5件が選ばれ, 9月9日(木)の12:10からオンラインにより表彰式を執り行いました。

最後に, 審査員および座長をお引き受けいただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げるとともに, ご発表いただいた方々の研究が今後益々進展

することを願っております。

今年度の表彰者は下記の通りです。

最優秀報告賞（1件）

岡野 遼（東京大学）

「最大射影型 Wasserstein 距離に対する推定と信頼区間の構成」

優秀報告賞（5件）

金子 亮介（東京大学）

「畳み込みニューラルネットワークを用いた地震波形画像からの深部低周波微動の検出」

新久 章（神戸大学）

「debiased Lasso に対するチューニングパラメータの選択について」

長谷川 貴大（東京大学）

「リンク予測におけるバイアス項によるグラフニューラルネットワークの表現力強化」

羽村 靖之（東京大学）

「制約された確率母数を持つ二項分布に関するベイズ的な点推定と予測密度推定」

若山 智哉（東京大学）

「関数データの分類問題における完全分類条件と取束レート解析」

5. コンペティションセッション受賞者の言葉 最優秀報告賞

岡野 遼（東京大学）

この度はコンペティションセッションにおいて、最優秀報告賞を頂き、大変光栄に思います。企画および運営をされた先生方、審査を担当していただいた先生方に感謝致します。また、本研究のご指導をくださった今泉允聡先生をはじめ、日頃から研究を支えてくださっている方々にも感謝致します。

本報告では射影に基づくタイプのワッサースタイン距離の統計的性質について報告しました。具体的には、経験分布を plug-in して得られる推定量の漸近分布を、分布が有限集合でサポートされている場合に導出しました。これにより、信頼区間の構成や、分布の同一性の検定への応用が可能

になります。このタイプの距離は機械学習の応用分野ではポピュラーなようですが、統計学の立場からの先行研究は殆どなく、新規性のある結果を報告できたかと思います。

今回の受賞を励みに、今後も研究に励んでいきたいと思っています。どうもありがとうございました。

優秀報告賞

金子 亮介（東京大学）

この度はコンペティションセッションにおいて優秀報告賞を頂き、大変嬉しく思います。審査をして頂いた先生方、ならびに大会の企画・運営をして頂いた関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。また、指導教員である長尾大道先生、共同研究者である伊藤伸一先生、小原一成先生、鶴岡弘先生をはじめ、研究を支えてくださっている方々に心より感謝申し上げます。

本発表では、約50年前の紙媒体の地震波形記録から深部低周波微動と呼ばれる目視での判別が困難な現象を検出するため、深層学習モデルの一つである畳み込みニューラルネットワークを用いた手法を提案し、人工波形画像および実データを用いた学習によってモデルの有効性が確認されたことをご報告いたしました。今後は、審査中に頂いたコメントやアドバイスをもとに手法を改良し、本研究の目標である古記録への適用に向けて精一杯取り組んでいきたいと考えています。

新久 章（神戸大学）

この度は、優秀報告賞という大変栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。審査や運営を担当された方々に、心より御礼を申し上げます。おかげさまで、無事に発表を終えることができました。また、先生方から貴重なご質問やコメントをいただくこともできました。本発表では、高次元統計的推測の方法におけるチューニングパラメータの選択について報告しました。研究の成果をまとめることができたのも、末石直也先生のご指導のおかげです。また、セミナー発表で重要なコメントをくださった先生方にも感謝しており

ます。今回の受賞を励みとして、今後の研究に精進します。

長谷川 貴大 (東京大学)

この度はコンペティションセッションにおいて優秀報告賞を賜り、大変光栄に存じます。審査をご担当いただいた先生方、企画および運営にご尽力いただいた関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。また、卒業研究として本研究をご指導いただいた鈴木大慈先生をはじめ、研究を支えてくださった皆様にも感謝申し上げます。本研究では、グラフ・ニューラル・ネットワークを応用したリンク予測に取り組み、既存手法である GAE の理論的限界を報告しました。それに基づき、GAE にスカラーバイアスを加え、学習を効率的に計画する Shifted-GAE を提案し、ベンチマークデータで SOTA を達成しました。さらに、時系列予測を含む企業間取引関係の予測に応用し、経済データに対するリンク予測の応用可能性を示しました。今回の受賞を励みに、今後の研究に邁進してまいります。この度はありがとうございました。

羽村 靖之 (東京大学)

この度はコンペティションセッションにおいて優秀報告賞を頂き大変光栄に思います。審査や企画・運営に携わられた方に深く感謝致します。今回は博士研究員（ポスドク）として参加させて頂

き、制約された確率母数を持つ二項分布に関する研究を紹介しました。ちょうど二年前に学生の時に発表したポアソン分布の場合の研究を発展させた結果を、発表することができました。指導教官の久保川達也先生をはじめとする多くの先生方や研究室のメンバー、これまでの研究を支えて下さった方に感謝しております。コンペティションセッションへの参加は四回目でしたが、毎回、非常に貴重な経験をさせて頂きました。また、過去に頂いたコメントを反映させられるよう努めました。今回の受賞を励みとして、これからも研究に励んでいきたいと思ひます。

若山 智哉 (東京大学)

この度はコンペティションセッションにおいて優秀報告賞を頂き、大変光栄に存じます。日頃から指導いただいた菅澤翔之助先生や共同研究者の今泉允聡先生、企画および運営をされた関係者の皆様に感謝致します。本発表では、一定の条件下で、関数データの分類誤差が指数減衰することを報告いたしました。この結果は完全分類の成立が関数データで現実的であることを示しており、関数データが有限次元のデータに対して優越する、新たな点でもあります。

今回の受賞を励みに、今後も有意義な研究ができるよう、一層精進していきたいと思ひます。

3. 2022年度統計関連学会連合大会のお知らせ (第一報)

運営委員長 飯塚 誠也 (福岡女子大学)

実行委員長 小森 理 (成蹊大学)

プログラム委員長 黒田 正博 (岡山理科大学)

1. 2020年度統計関連学会連合大会について

2022年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の主催により、下記要領にて開催いたします。

開催場所は成蹊大学を予定していますが、コロ

ナ禍の状況を確認しつつ、開催方式については現在検討中です。3月上旬発行予定の第二報にてご案内の予定です。

日程：2020年9月4日（日）～8日（木）

9月4日：チュートリアルセッションおよび市

民講演会

9月5日～8日：本大会（一般講演，企画セッション，コンペティションセッション，ソフトウェアセッションなど）

2. 各種企画について

本大会においても従来の大会と同様に，チュートリアルセッション，市民講演会，企画セッション（4月上旬に締め切りを設定予定），コンペティションセッション，ソフトウェアセッションなどを予定しています。何かご意見やご提案をお持ちの方はプログラム委員会（kikaku2022（at）jfssa.jp）までお知らせください（（at）を@に置

き換えてください）。企画セッションの公募は第二報（3月上旬発行予定）で，各種企画は第三報（5月上旬発行予定）で，それぞれお知らせする予定です。

3. 一般講演や大会参加について

一般講演や参加の事前申込，報告集原稿提出は今後開設するホームページ上で行います。一般講演申込の締め切りを5月下旬（予定）とし，それ以降に，報告集原稿提出および参加の事前申込の締め切りを設定いたします。発表を計画されている方は予定に組み込んでいただければ幸いです。確定した期日は，第三報でお知らせいたします。

4. 第16回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

大森裕浩（日本統計学会理事長）

吉羽要直・小方浩明・長倉大輔・中妻照雄・中山厚穂・星野崇宏（企画・行事委員会）

中妻照雄・片山翔太・長倉大輔・星野崇宏（実行委員会）

第16回日本統計学会春季集会を慶應義塾大学三田キャンパスにて，遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催いたします。プログラムは招待講演による4つの企画セッションと基調講演およびお昼の時間帯にポスターセッションを設けます。セッションおよびプログラムは，随時，春季集会Webサイトにてアナウンスいたします。

また今回もポスターセッションの発表を広く募集しております。今回のポスター発表は現地での対面報告とオンラインでの報告を選べるようにし，いずれも1報告当たりのコアタイムを55分とした入れ替え制とします。ポスター発表の応募に際しては，概要と審査用の予稿をご準備ください。優れたポスターに対して，「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。セッション終了後，授賞式を行います。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

記

日時：2022年3月5日（土）

10時00分～18時00分

会場：慶應義塾大学三田キャンパス

（第1校舎）

参加費：学会員は無料（ただし事前に参加登録が必要です。非会員は有料で，事前支払3000円，当日支払5000円です。懇親会は行いません。）

共催：慶應義塾大学経済学部，慶應義塾大学経済学部附属経済研究所，統計数理研究所

○プログラム等の詳細情報は，春季集会Webサイトをご覧ください。

○事前参加登録

本集会は，会場の都合上，事前の参加登録にご協力ください。オンライン聴講は事前の参加登録が必須です。春季集会Webサイト内の参加申込ページより，2月28日（月）までにお申し込みください。

○ポスターセッションの申込み

春季集会Webサイト内のポスターセッション申込ページより，2月14日（月）までにお申し込み

みください。応募に際しては、例年と異なり春季集会 Web サイトで案内します要領に沿って、Web で参加者が参照可能な概要と、審査員のみ参照可能な審査用の A 4 用紙 4 枚以内の予稿をご準備ください。ポスターセッションに関する詳細

も同ページをご覧ください。表彰の審査対象は、日本統計学会会員（ポスター発表申し込みまでに入会の手続きをしている方）に限定しておりますので、ご注意ください。

5. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

大森 裕浩（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

- 第27回 日本統計学会賞
- 第2回 日本統計学会中村隆英賞
- 第18回 日本統計学会統計活動賞
- 第18回 日本統計学会統計教育賞
- 第16回 日本統計学会研究業績賞
- 第15回 日本統計学会出版賞
- 第36回 日本統計学会小川研究奨励賞

いずれも推薦期間は、2021年12月16日（木）から2022年3月25日（金）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ（<https://www.jss.gr.jp/society/prize/>）からダウンロード可能です。推薦書は各賞ともすべて電子ファイル（パスワード保護、ファイル中のテキストを抽出できる形式でお願いします）を学会事務局宛に電子メールにてお送りください。メールの標題には、賞の名称を明記してください（例：「日本統計学会賞推薦書類」）。

なお、今回の募集から、推薦書の郵送や押印は不要となりましたのでご注意ください。

不明な点は学会事務局にご照会ください。

[学会事務局]
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会
TEL & FAX：03-3234-7738
E-mail：shom@jss.gr.jp

各賞共通の規程並びに各賞個別の概要については、下記の URL をご参照ください。

https://www.jss.gr.jp/wp-content/uploads/gakkai_prize.docx（概要）
<https://www.jss.gr.jp/society/rules/>（規程）
<https://www.jss.gr.jp/society/prize/#youshiki>（様式）

6. 2021年1月から6月の統計検定 CBT 方式試験の成績優秀者

樋口 知之（日本統計学会会長）
大森 裕浩（日本統計学会理事長）

2級

最優秀成績賞（S）：江崎悠太，大高郁斗，小野媛乃，大家拓也，永田伸広，日笠航希，八巻薫平
優秀成績賞（A）：石川智江，石川立，岩崎豊，岩名紘基，牛山敦，遠藤卓也，奥津誌朗，柏木信一，川上隼弥，小林紗来，小林知毅，塩川雅貴，

清水雄太，鈴木海理，鈴木健吾，鈴木伸介，鈴木智恵香，田中義規，仲野哲平，中村菜由，成尾俊亮，西浦謙吾，林伸也，船登有未，古川翔太，松田健吾，松本薫，三浦羽未，三浦彰太，茂木翼，安田圭佑，梁田遼二，山田雅之，山田龍司，吉田晋，米林拓大

3級

最優秀成績賞 (S)：伊藤瑤子，植村知之，大西陸人，岡本章太郎，栗山彩香，合田凌，鮫島雅彦，立山千聡，田中聡，中川知子，新野洋平，橋野純一，濱口晃典，廣瀬祐希，藤田育寿，麻殖生有，武藤真祐，谷中田和希，吉村涼，若山彰太

優秀成績賞 (A)：朝岡翔平，安西琉偉，池浦公規，梅田俊，大澤和也，岡田祐梨子，萩野裕介，奥山慧，小野媛乃，川勝優美，川間大輔，工藤靖与，黒岩裕太，小坂亜由美，後藤崇，小林亮太，坂倉伊織，坂本祥之，清水誠弥，下山裕介，東海林千尋，鈴木敬人，鈴木雅人，関美咲，平将史，田口航太郎，谷進平，谷上周史，出口陽一郎，出野上真樹，中山寛隆，西麻衣，長谷川幸一，畑山裕治，花岡泰資，林宏，林亮馬，原大介，福原かおり，星研，堀江秀斗，本田岳夫，前田駿一郎，前田康彦，牧野志保，村山史弥，持田貴洋，森真奈人，横山悠樹，吉田知正，吉田研誠，渡邊素行，王嘉康

4級

最優秀成績賞 (S)：奥山佳子，野口慶美，濱本祐輔，平田匠，平田文枝，町屋宏之，村山史弥

優秀成績賞 (A)：岩井康彦，落合信寿，笠谷元規，加藤春彦，金田晃，川上進，川崎隆志，工藤智司，小嶋宏幸，小林聡史，佐藤敏稀，讃岐田悠

澤さゆり，志賀広拓，重光智香，地引洋，田島弘樹，野田菜摘，秦健太郎，浜口巧，藤居達郎，逸見亮夫，堀井智彦，三宅憲太郎，宮崎喜之，森本宣光，諸藤由希子，横山明司，横山悠樹，吉武典彦，吉元涼介，若林怜帆人

統計調査士

最優秀成績賞 (S)：石渡智一，岩崎良太，川上進，酒井彰，清水洋介，清水山隆洋，白井剛，堤麻里，友添和彦，三上宗一，三重和憲，毛利亜由子

優秀成績賞 (A)：安藝裕介，東悠介，東雄輝，新井涼介，岩井康洋，上内洋人，上野康隆，岡部亮祐，亀岡偉一，川口雄也，北田実希，草間あゆみ，小西悠太，小林愛理沙，竹田悠馬，永井淳誠，中島泰暉，新田隆，村合竜生，山岡哲，山本典子，湯沢祥大，横井裕貴，若山賢人

専門統計調査士

最優秀成績賞 (S)：岡崎はるか，川端篤，木村貴史，後藤隆太郎，小西悠太，萩尾亘，藤井正敏

優秀成績賞 (A)：愛甲伊久磨，池田幸生，井手健太，井上進輔，江川和宏，押野智樹，黒岩久登，小荷田直也，酒本秋平，下山晃平，武田明久，寺田悠希，錦織啓佑，原田和也，藤田卓，三上宗一，三重和憲，村合竜生，八木真理奈，山下満，和田恵

7. 理事会・委員会報告 (2021年10月30日開催)

小池祐太・加藤昇吾 (日本統計学会庶務担当理事)

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時 2021年10月30日 (土曜日)

午後1時00分～午後1時26分

場所 東京大学大学院経済学研究科1301

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom (ミーティング ID : 867 3463 7993)

理事の総数 14名 出席理事の数 13名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：樋口知之の会長，大森裕浩理事長，小池祐太 (庶務)，加藤昇吾 (庶務)，吉田靖 (会計)，青嶋誠 (JJSJ)，中島上智 (広報)，吉羽要直 (大会・企画・行事)，菅澤翔之助 (国際)，各務和彦 (国際)，瀬尾隆 (渉外)，佐藤整尚 (渉外)，竹内光悦 (教育)，(以上13名，括弧内は役割分担)

監事：岩崎学，川崎茂，山下智志

欠席：柳原宏和（会誌編集和文）

第1議案 常設委員会における委員の交代について

大森理事長より、資料に基づき、常設委員会における委員の交代について提案があり、審議の結果、承認された。

大会委員会

渡邊隼史委員より高田輝子委員に交代（2021年10月30日付）

第2議案 臨時委員会における委員の追加について

大森理事長より、資料に基づき、臨時委員会における委員の追加について提案があり、審議の結果、承認された。

JSS-Springer 編集委員会

鈴木大慈委員を追加（2021年10月30日付）

第3議案 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

大森理事長より、資料に基づき、学会賞各賞の候補者推薦を開始する旨が報告され、承認された。尚、推薦受付期間は2021年12月6日（月）から2022年3月25日（金）までとする。

樋口会長より、2022年度の中村隆英賞における「会長が推薦する選考委員」として會田雅人会員、山本拓会員及び美添泰人会員の推薦があり、審議の結果、承認された。

第4議案 学会賞各賞推薦書様式の変更について

大森理事長より、資料に基づき、学会賞各賞推薦書様式の変更について説明があり、審議の結果、承認された。

第5議案 社員懇談会招集の件

樋口会長より、社員懇談会を以下の通り開催することが提案され、審議の結果、承認された。

1. 日時 2022年3月4日（金曜日）
午後6時00分から
2. 開催形式 未定（ハイブリッド形式の場合には、
東京大学本郷キャンパスを予定）
3. 会議の目的事項

（1）社員懇談会における通常の審議

第6議案 会員の入退会

大森理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者が紹介され、審議の結果、承認された。

一般社団法人日本統計学会 委員会

日時：2021年10月30日（土曜日）

午後1時26分～午後4時01分

場所：東京大学大学院経済学研究所1301

ハイブリッド出席型バーチャル委員会として実施

Zoom（ミーティングID：867 3463 7993）

出席：理事13名、監事3名、計16名

樋口知之会長、大森裕浩理事長、小池祐太、加藤昇吾、吉田靖、青嶋誠、中島上智、吉羽要直、菅澤翔之助、各務和彦、瀬尾隆、佐藤整尚、竹内光悦
岩崎学（監事）、川崎茂（監事）、山下智志（監事）

欠席：柳原宏和

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

青嶋委員長より、JJSDの編集状況と2021年の投稿状況について説明がなされた。また、編集委員の性別構成を見直し、女性研究者を国内外から選出して、女性 Associate Editor を4名から25名に増員した。

2. 和文誌編集委員会

柳原委員長が作成した資料に基づき、大森理事長より和文誌の編集状況について報告があった。

3. 大会委員会

吉羽委員長より、大会委員1名の交代について報告があった。

4. 企画・行事委員会

報告事項なし

5. 庶務委員会

加藤委員長より、以下について報告があった。

・協賛・後援承諾について

協賛：

電子情報通信学会・情報論的学習理論と機械学習研究専門委員会「第24回情報論的学習理論ワークショップ（IBIS2021）」

後援：

・第14回データビジネス創造コンテスト

主催：慶應義塾大学 SFC 研究所 データビジネス創造・ラボ

・（社）情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会「人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん2021）」

6. 広報委員会

中島委員長より、会報189号が校了し、月末に発行予定であることが報告された。

7. 国際関係委員会

菅澤委員長より、台湾統計学会、韓国統計学会、日本統計学会共同開催の国際セッション（CSA-KSS-JSS Joint International Session）が、台湾統計学会の主催で2021年12月10日にオンライン形式で開催予定であり、日本からは4名の講演が予定されていることが報告された。

また、樋口会長より、韓国統計学会の50周年記念大会にお祝いのビデオメッセージを送付したことが報告された。

8. 渉外委員会

樋口会長より、横幹連合の理事候補として、川崎茂会員を推薦したことが報告された。

佐藤委員長より、科研費中間評価報告書の提出依頼があり、期日までに提出したことが報告された。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長より、統計質保証推進協会で開催された事業委員会での議論の内容が報告された。

10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

川崎委員長より、委員会設置の経緯について説明があった。

11. 統計教育委員会

竹内委員長より、以下について報告があった。

- ① 統計センター主催で開催された「統計データ分析コンペティション2021」の審査結果がウェブサイトで公開されている。
- ② 第69回統計グラフ全国コンクールが応募期間中であり、特選作品の1つに日本統計学会会長賞を授与する予定である。
- ③ 高校生へのデータサイエンス教育に関する研究会である「JDSSP データサイエンス教育研究会」が最近定期的に開催されており、希望すれば参加可能である。月刊誌「統計」に研究会の履歴記事が掲載されている。

12. その他

加藤庶務委員長より、資料に基づき、2020年度JINSE 活動報告の報告書について報告がなされた。

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

大森理事長より、第16回日本統計学会春季集会を統計数理研究所との共催とする提案があり、審議の結果、承認された。

吉羽委員長より、11月13日に開催する日本統計学会春季集会準備会議において、第16回日本統計学会春季集会の開催形式や内容について決定することが提案され、審議の結果、承認された。

5. 庶務委員会

審議事項なし

6. 広報委員会

中島委員長より、terrapub.co.jp の運用停止に伴う学会和文誌論文の掲載・管理方法の変更について提案があり、審議の結果、承認された。

7. 国際関係委員会

審議事項なし

8. 渉外委員会

審議事項なし

9. 統計教育委員会

審議事項なし

10. その他

審議事項なし

今後の予定

- ・2021年11月13日（土）13：00
日本統計学会春季集会準備会議：オンライン開催（Zoom）
- ・2022年2月10日（木）18：00
理事会：開催形式未定
- ・2022年3月4日（金）18：00
社員懇談会：開催形式未定
- ・2022年3月5日（土）
日本統計学会春季集会：開催形式未定

8. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の新刊紹介記事を掲載します。

●松原望・森本栄一『わかりやすい統計学 データサイエンス基礎』丸善出版、2021年11月、2,200円（税込）

●松本渉『社会調査の方法論』丸善出版、2021年9月、3,300円（税込）

内容紹介：社会調査の実際例をあげながら、社会調査の読み方・目的・意義・種類・歴史・倫理等の基礎的事項や、社会調査の方法（データ収集方

法、標本抽出等)を決めて、データを収集・整理

するといった実際の手順を解説する。

9. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2021年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。
(<https://www.jss.gr.jp/fec/>)。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

入会承認

赤谷俊彦, 大久保祐作, 大原剛三, 川崎雅規, 川尻喜章, 川西建, 河原一幾, 杉山豊, 豊福義彦, 中島和基, 中瀬卓也, 平井慎一, 水上竜伸, 宮代隆平, 桃崎智隆, 横田彰, スキルアップ AI (株)
(敬称略)

退会承認

赤岡佑治, 井上暁光, 大瀧慈, 北山直樹, 酒井悠斗, 清水祐弥, 当真賢也, 野口貴宏, 古河俊一, 山内禎祐, 山中竹春
(敬称略)

現在の会員数 (2021年11月4日)

名誉会員	14名
正会員	1,391名
準会員	9名
学生会員	62名
総計	1,476名
賛助会員	18法人
団体会員	7団体

10. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

●来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

●博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

●求人案内 (教員公募など)

●研究集会案内

●新刊紹介

著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

●会員活動紹介 (叙勲・受章、各種受賞等)

できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町2-1-1

日本銀行 調査統計局

中島 上智 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL：
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp